

CD

「そこは、宝島」

演奏学科ジャズ専修 27年 4年

佐々木穂奈



ほぼ毎日、学校の図書館でCDを借り、1時間半の通学の帰り道の電車の中で、その日借りたCDのライナーノーツを読むのが私の日課です。

このCDを借りたとき《Ugetsu》という日本語的なアルバムタイトルにまず興味が湧いたのを覚えていきます。

タイトル曲である《Ugetsu》(作曲者はシダーウオルトン)を聴いて、「こんなに素敵なお曲があるんだ」と感動と衝撃を受けた曲でもありました。

私はジャズ専修に入学して間もない頃、まだジャズの右も左もわからないから、同期の仲間たちがジャズのことを喋っている内容もちんぷんかんぷんで「どうしよう…」と戸惑っていました。

ジャズ専修1年生の授業に「ジャ

ズ史」というジャズの歴史を学ぶ授業があり、その中で『アートブレイキー(Drums)とジャズメッセンジャーズ』のことが取り上げられました。

「アルバムを借りて聴いてみたい」と思い、早速図書館でCDを探し、あるもの全てを予約して毎日借りに行き、聴きました。

聴いていくうちに、ジャズ史の授業で先生のおっしゃっていたことがわかるようになっていきました。点と点が線で繋がるように……。

そして《Ugetsu》と出会いました。

これまで聴いたことのない、爽やかな感じ、そして推進していくドライブ感……心をわしづかみにされ、虜になってしまいました。何度も何度も《Ugetsu》を聴いて、今では私のリーダーライブで外せない大好きな曲となりました。

『アートブレイキーとジャズメッセンジャーズ』という、Eテレで放送されている「美の壺」で、テーマソングに使われている《Moanin'》という、多分皆さんも一度は耳にしたことのある、ブルージーで「黒さ」が全面に出ているナンバーがとっても有名なのですが、《Ugetsu》はそれとは全然違った味わいがあります。耳の清涼飲料水や、ラムネのような。

《Ugetsu》は「Fantasy in D」という別名が有ります。訳すると「長調の幻想」という意味です。

この曲のコードワークやハーモニーに、特に「幻想」を感じます。ジャズが好きという方以外にも、ラヴェルなどフランスものが好きな方に特にこの曲のハーモニーを感じて欲しいなと思います。

図書館でこの《Ugetsu》というアルバムと出会っていなかったら、今も《Ugetsu》は知らない曲だったかもしれません。

図書館なくして私の大学生活、ジャズ専修生活は語れません。

自分でもYouTubeやAmazonでCDや音源を探したりするので、国音の図書館は意外にJAZZ

のCDが揃っています。最初は1年あれば図書館にあるJAZZのCDはすべて借り切ってしまうだろうと思っていたら全然そんなことはありませんでした。

この春4年になりましたが、まだまだ借りたいCDが図書館で見つかりません。

今もほぼ毎日、図書館でCDを借りたり、楽譜や音楽雑誌を借りるのが楽しみであり、日課となっています。

私にとって、国音の図書館は宝島。いつも何か、まだ知らない音楽との出会いがそこにはあるので

もし、この記事を読んで少しでも興味がわいたら是非聴いてみてください。この《Ugetsu》以外にもジャズのCDが図書館にたくさん入っています。みなさんにも、素敵な音楽との出会いがありますように！



『Ugetsu』[録音資料] / Art Blakey's Jazz Messengers. - Riverside. 1992. - (マスターズ・オブ・ジャズ・シリーズ. 第III期; 72). 請求記号●XD16333